

こんにちは、研伸館英語科の池吉です。今回も、「温故知新」をテーマに名文を一緒に味わってゆきたいと 思います。

今回の問題は、1981年(昭和56年)の京都大学から。原典は E. H. Carr の名著 What is History? です。Carr は 20 世紀に活躍したイギリスの歴史家・政治学者で、日本でも数多くの著作が邦訳されています。今回の原典も『歴史とは何か』(清水幾太郎訳、岩波新書)として公刊されていますので、将来歴史研究に携わりたいと考えている人は一読をお薦めします。ちなみに、歴史研究においてしばしば引用される「歴史とは現在と過去との対話である」という格言も、この著作からの引用です。

便利な世の中になったもので、現在ではインターネット上で What is History? の全文が閲覧できるようになっています。 興味のある方は一読をお薦めします。

今回、この文章を取り上げたもう1つの理由は、京都大学と同じ箇所が5年後の1986年に一橋大学で出題されていることです。もっとも、設問形式は同じではありませんし、一橋大学では京都大学よりも長く引用されていましたが。名著は複数の大学で出題されるから読むべきだ、というのはあまりに浅はかですが、この文章には大学教授たちが受験生に読ませたいと考える"何か"がある、と類推することは可能でしょう。その"何か"を探求するのが、今回の最大の目的です。

出題に当たって、京都大学の形式と一橋大学の形式のどちらを採用するかという問題があったのですが、 出題形式は京大に、引用箇所は一橋に合わせることにしました。その結果、難易度は格段に跳ね上がってし まいましたが、強者を志す貴方に相応しいレベルになったと思います。

それでは、解説編で再びお会いしましょう。



問 次の文を和訳せよ。

History begins when men begin to think of the passage of time in terms not of natural processes — the cycle of the seasons, the human life span — but of a series of specific events in which men are consciously involved and which they can consciously influence. History, says Burckhardt, is 'the break with nature caused by the awakening of consciousness.' History is the long struggle of man, by the exercise of his reason, to understand his environment and to act upon it. But the modern period has broadened the struggle in a revolutionary way. Man now seeks to understand, and to act on, not only his environment but himself; and this has added, so to speak, a new dimension to reason, and a new dimension to history. The present age is the most historically-minded of all ages. Modern man is to an unprecedented degree self-conscious and therefore conscious of history. He peers eagerly back into the twilight out of which he has come, in the hope that its faint beams will illuminate the obscurity into which he is going; and, conversely, his aspirations and anxieties about the path that lies ahead quicken his insight into what lies behind. Past, present, and future are linked together in the endless chain of history.